

大阪から
始まった、
アート
美術をめぐる
モノガタリ
物語。

企画展

FROM OSAKA

～百貨店美術部モノガタリ～

【第Ⅰ部】
美術展を
観る

【第Ⅱ部】
美術品を
買う



伊藤岳《高島屋大阪店》1947年【I部】

2023年3月4日[土]—7月3日[月]

【第Ⅰ部】3月4日[土]—5月8日[月]

【第Ⅱ部】5月20日[土]—7月3日[月]

※会期は変更となる場合がございます

開館時間 — 10:00-17:00(入館は16:30まで)

会場—
高島屋史料館
企画展示室

休館日—火・水曜日
5月11日[木]—5月19日[金]は
展示替のため休館
【入館無料】

高島屋史料館

Takashimaya Archives

高 Takashimaya

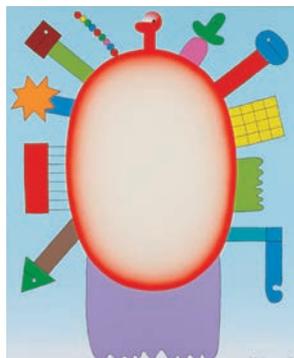




鍋井克之《熊野詣》1962年【I部】



山本太郎《七タラブツェル》2018年【II部】



元永定正《いろもかたもいろいろは》1990年【I部】



木村光佑《大阪の詩》1965年【II部】



平藤田中 大阪店茶室扁額「白寿庵」 島成園《お客様》年末詳【I部】
1948年【II部】



現在、日本の多くの百貨店には美術画廊があります。そこでは週替わりで、美術品の展覧会が開催されていて、展示作品を気に入れば誰でも購入することができます。“買える美術館”といわれる所以です。担当するのは百貨店の美術部門。その歴史は、1907（明治40）年、三越呉服店が大阪店に「新美術部」を創設したことにはじまります。続いて1911（同44）年、高島屋呉服店が、やはり大阪店に「美術部」を創設しました。その後、同業他店でも美術展が開かれるようになり、美術部が創設されましたが、“百貨店美術部の両雄”として知られたのは、三越と高島屋の両美術部でした。

本展は、ともに大阪の地から誕生した三越と高島屋の美術部の成り立ちと活動をひも解きながら、「大阪」をキーワードに集めた作品を展覧するものです。近代日本において百貨店美術部が果たしてきた役割を見つめ直し、その過去・現在・未来についても考えます。

※本展は会期をI部・II部に分け、展示作品を入れ替えて構成します。（一部、展示資料を除く）

イベントのご案内

※詳細は当館ホームページをご覧ください。※状況により、イベントを中止する場合がございます。

①～③いずれも参加無料、要申込み、**抽選制**です。当館ホームページよりお申込みください。

① 講演会

「高島屋美術部の物語
—美術部〈勤務〉50年史—」

要申込み・抽選制

■講師＝中澤一雄氏

（元高島屋美術部顧問）

■4月9日【日】13:00～14:30

■会場＝多目的ルーム

■定員＝15名

② 講演会

「いまでも これからも
“美”は生き方の道しるべ」

要申込み・抽選制

■講師＝津田廣行氏

（高島屋美術部OB）

■6月11日【日】13:00～14:30

■会場＝多目的ルーム

■定員＝15名

③ 美術画廊への誘い

本展を鑑賞後（学芸員が解説）、大阪店美術画廊へ移動し（徒歩10分）、四代 田辺竹雲斎先生の個展会場を訪ねます。
～四代 田辺竹雲斎ギャラリートーク&作品制作パフォーマンス～（14:00～）にご参加いただけます。

要申込み・抽選制

■5月26日【金】13:00～14:30頃

■会場＝高島屋史料館企画展示室

→大阪店6階美術画廊

■定員＝15名

Photo by
Tadayuki Minamoto



学芸員によるギャラリートーク

■会期中の毎週土曜日 14:00～（約30分）※お申込み不要、開始時間までに企画展示室にお集まりください。



【アクセス】 南海電鉄・大阪メトロ「なんば駅」、近鉄・阪神「大阪難波駅」より徒歩約10分
近鉄・大阪メトロ「日本橋駅」5・10番出口より徒歩約8分
※専用駐車場はございません。近隣の有料駐車場をご利用ください。

【住所】 〒556-0005 大阪市浪速区日本橋3-5-25 高島屋東別館3階
TEL. 06-6632-9102

<https://www.takashimaya.co.jp/shiryokan/>

